

第4章 カモシカ死亡個体の分析

1. 調査方法

カモシカは特別天然記念物であるため、その死亡個体や負傷個体が発見された場合は、各市町村教育委員会が県教育委員会に、さらに県教育委員会が文化庁に滅失届を提出するよう行政指導が行われている。これらの滅失記録や死亡個体から得られる情報は、カモシカの個体群動態を知る上で貴重かつ重要なものである。第4回調査では、2004年度から2011年度までの滅失届を整理した。

死亡要因は発見時の現場の状況から報告者が推定したり、市町村教育委員会などから委託された獣医師などが主に外貌所見から検死したものであるが、死後日数が経過していることで検死が困難であるなど、直接の死因を正確に把握することが困難な場合が多い。また、カモシカが生存状態で発見される際は衰弱している場合が多いが、衰弱に至るまでの過程について推定するのは困難である。このことを念頭においたうえで、これまでに提出された滅失届の死亡要因を整理した。

2. 滅失届の整理

表Ⅱ-24に、2004年度から2011年度までの滅失届報告件数を示した。2004年度の報告件数については第3回調査でもとりまとめたが、2004年度の速報値を示したため、再整理した。滅失届の提出はカモシカの死亡直後に行われるとは限らないため、現在得られている件数に加えて、若干数の追加が発生する可能性もある。

報告件数をみると、8年間での報告件数は379件であった。年度別では毎年、概ね50件程度が報告されていた。県別では富山県の報告件数が多く、全体の50%以上を占めていた。報告件数は増加傾向にあり、1996年度から2002年度までは毎年20件から30件程度の報告があったが、2003年度以降は50件以上に増加した（新潟県教育委員会ほか、2006）。

滅失個体の確認された地点が記録されていた報告については図Ⅱ-22に示した。保護地域内での確認地点は少なく、保護地域の外縁部に集中していた。また、保護地域の北部における確認地点が多かった。

滅失届の記載に基づく死亡要因別の個体数を表Ⅱ-25に示した。死亡要因は事故と疾病とに大きく分けられ、事故が144件、疾病が37件であった。ただし、不明／未記載が198件あり、大きな割合を占めているため、事故と疾病の割合は不明瞭である。

事故とされたものの詳細を見ると、列車や自動車等による交通事故が71件、溺死が31件と多かった。交通事故による死亡個体が多い理由は明らかではないが、保護地域周辺部において、集落や道路、鉄道の軌道などといった場所にカモシカが出没する頻度が高くな

った可能性が考えられる。

疾病で最も多かったのは衰弱、老衰など全身性の疾病とされたもので、16件報告された。ただし、病理検査が行われるか特徴的な症状が現れているような場合を除けば、外見上は死因が判断できないような場合は不明疾病や全身性の疾病に分類される場合が多いと考えられる。

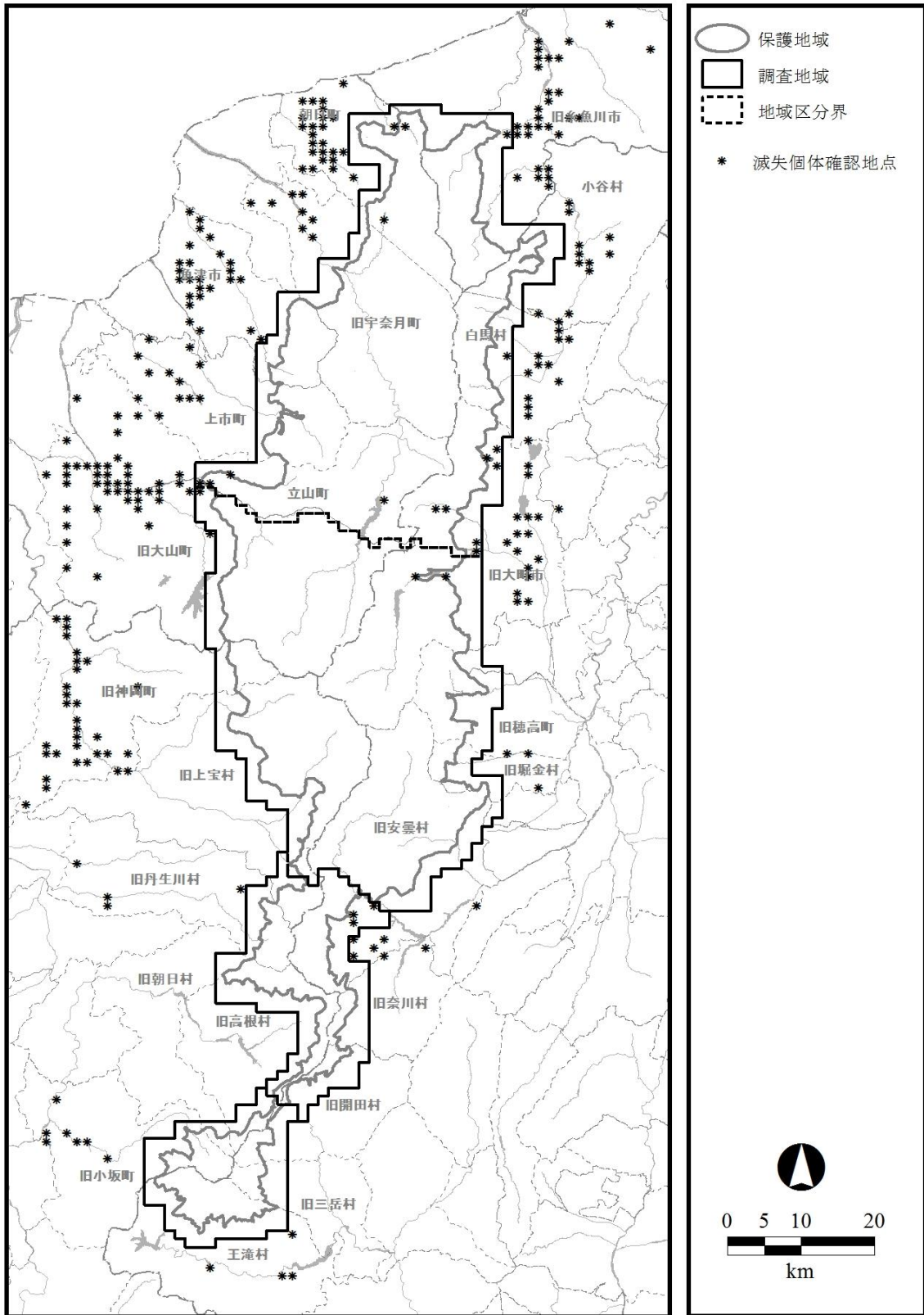
表Ⅱ-24 県別・年度別滅失個体報告数（2004年度～2011年度）

	年度									計
	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011		
新潟県	6	7	5	4	4	5	8	5	44	
富山県	30	23	24	9	40	29	21	21	197	
長野県	10	9	10	7	7	5	17	14	79	
岐阜県	9	4	5	2	5	6	10	18	59	
全体	55	43	44	22	56	45	56	58	379	

※富山県の2007年度のデータの一部は得られなかった

表Ⅱ-25 死亡要因別滅失個体報告数（2004年度～2011年度）

死亡原因			件数
事故	交通事故	列車	14
		自動車	16
		不明	41
	工作物などの障害物		2
	溺死		31
	転落死		14
	雪崩		3
	捕食	クマなど	2
	不明		21
	計		144
疾病	全身性	衰弱・老衰など	16
		飢餓	1
	外表性	皮膚炎・パラポックスウイルス感染症	4
		膿傷	1
	外傷	裂傷・骨折	5
	不明		10
	計		37
不明／未記載			198
計			379



図Ⅱ-22 滅失個体確認地点（2004年度～2011年度）